

トランプ大統領が北朝鮮の金正恩氏を
「非常に高潔な人物」と評価した背景について考える！
⇒編集後記

~~~~~

どうもゆうです！

読者さん、こんにちは！

さてさて、ここ最近アジア情勢が大きく動いておりますね。

私の今いるマレーシアのランカウイ島でも

ランカウイ島出身であるマハティール前首相が出馬で頑張ってるし

また、北朝鮮情勢なんかはどんどん進展しておりますして

まさにメルマガで追って来たとおりに、トランプ大統領が

駒を前に進めております。

それで、昨日なんかはトランプ大統領が北朝鮮の金正恩氏を

「非常に高潔な人物」と評価したわけです

その裏側について今号でも考えて生きます！

編集後記で！

=====編集後記=====

さてさて、私のメルマガでは北朝鮮情勢について長く扱ってございまして

これは韓国でもムンジェイン大統領誕生の瞬間とかそれも

メルマガで扱ってきて、結局 長期的に在韓米軍撤退の流れが作られていき

そして米朝国交正常化、米朝和平条約になっていくシナリオについて

数年前から扱っていたわけですが

今まさにトランプ大統領が軍産の攻撃をものともせず

その方向性に向かって頑張っておりますね。

ちなみに北朝鮮が4月20日に核兵器と中 長距離のミサイル開発を

やめて、

核開発の中止を世界に示すため、プンゲリ核実験場を閉鎖する

と発表したわけでした

そこでアメリカから挑発されないかぎりには核ミサイルの開発を再開しない

と発表しておりますね。

そしてこれからは核ミサイル開発に割いていた資金や労力を

北朝鮮の今や結構ピョンヤンなんかは発展してるけど

これらをもっと発展させる経済建設に振り分けていくということを

言ってるわけです。

それで北朝鮮は今までは在韓米軍が撤退しない限りは  
核廃棄はしない、(それは攻撃される可能性があるから)  
と言ってきたわけですが

ここで北朝鮮は最近ではアメリカが仮に北朝鮮への敵視をやめて  
北朝鮮の安全を保障してくれるならば在韓米軍は撤退しないでも  
いいから、完全な非核化をそこでやっていけるとしてます。

それでトランプ大統領はそこで北朝鮮の核ミサイル開発凍結宣言を  
高く評価して「世界と北朝鮮にとっても良いことだ」  
とツイートしています。

ただこれはもっと詳しく見ていくと、

「核兵器と長距離のミサイルは開発が完了したから

もう長距離のミサイルのテストしなくてもよくなったから

実験場閉鎖する」

って意味ですから

実のところ北朝鮮がまさに「非核化」することは全く行われたい

わけですね。

ただこれをトランプが「評価」しているところが重要です。

それで北朝鮮は核ミサイルを持っていると宣言したわけですが

それはアメリカが脅さない限り、この核兵器は使いません、

という意味ですよ。

だから今後もしアメリカが北朝鮮を脅せば当然北朝鮮は

アメリカに対して核ミサイル発射するぞと脅しますし

核実験は再開することはできるわけです。

だから今回の北朝鮮の宣言っていうのは本当のところは

アメリカと韓国と日本などの軍産側とつながりがある国々が

今の流れで和解や平和条約締結や国交正常化の大きな流れ、

ベクトルにある限りは、

今まで開発した核兵器はそのまんまだけど開発は

もうしません、っていうことを言ってるわけです。

だから本当は北朝鮮の言ってる事は非核化というものではない

わけですが

ただこれはトランプ大統領がやはり金正恩氏とつながっていて

ある種の演技を2人でしてるんだな、って気づく必要がある  
わけですね。

4月20日に北朝鮮が核開発を終了するという宣言をした  
わけですけども

これは今の世界の

トランプ大統領のアメリカと

習近平の中国と

プーチンのロシアと

ムンジェインの韓国

のこの米韓中露の動きの中で起こったわけです。

要するに今の世界体制はこの米韓中露という枠組みが  
大事になっており、そこで日本は蚊帳の外なんだけども

(ちなみになぜ安倍が蚊帳の外に置かれてるか？というと

これは後々、在日米軍撤退議論に結びつける前振りでしょう)

そしてこの米韓中露そして北朝鮮の5カ国が表向きは

「朝鮮半島の完全な非核化をやるぞ！！」と言っているわけで

実のところは北朝鮮が完全に非核化する核廃棄じゃなくて

北朝鮮が核兵器を隠し持つことを黙認して

そこで米朝国交正常化や平和条約締結および

南北の和解(朝鮮戦争の終結)

が解決されればよいという感じで動いているわけですね。

だから本当のところは米韓中露と北朝鮮の言ってる事ってのは

実際のところは嘘でこう役者のトランプと金正恩が後ろでは

キッシンジャーベースでつながっていて

そこで演技を互いにしてるように私には見えてるけど

ただこれは大事な演技なのですね。

というのはあくまでもここで朝鮮半島問題解決していく

ってのが重要な課題ですから。

それで「なぜ完全非核化を米韓中露は求めないの??」

って話になりますが

これはよく考えたら分かりますよね。

それは無理だからですよね。

核弾頭開発とあって強烈に監視されておりますから

そこでやはり開発する国は馬鹿じゃないですから

それを色々な場所に隠しているものです。

ちなみに、これは日本にだって核兵器は実際あるって

言われていますよね。

まあそれくらいトップシークレットだったりするわけで

北朝鮮の最上層部以外はこれ核弾頭がどれくらいあって

どこに配置されているか、

ってのは誰も知らないわけです。

それで完全に核廃棄することを以前も書きましたが CVID って

言いますけど

もしこの完全に核廃棄、非核化なんて事を言い出したら

まず北朝鮮を政権転覆して、長期占領してそこで

なんとかその核兵器を探していくってことをしないと

いけないわけです。

ただこれは実際無理なんですね。

ちなみに言論人でも優れた人で色々な意見はありまして  
実際に北朝鮮を攻撃してそこで CVID を実行してそこで  
金正男暗殺の時に出てきたハンソルをトップに添えようとする  
って言う言論もあるし、

また、もう一つ重要な言論は田中宇先生の言論で  
「それは無理だ、CVID のような完全核廃棄なんかを求めたら  
アメリカによる長期占領につながってイラク占領の大失敗から  
アメリカ政界は政権転覆や長期占領などは本音ではやりたくない」  
というものがあるんだけど

私は実はこれ後者の田中宇先生の言論が現実には即している  
と見ておりますね。

この CVID ってのは「完全かつ検証可能で不可逆的な(核)解体」  
の頭文字をとっているものなんだけども

元々はこれは軍産官僚の利権戦略なんですね。  
これはもうよくネットでは知られるようになってきたと  
思います

結局の話、ワシントン官僚や日本や韓国の官僚の利権として  
在韓米軍や在日米軍ってのが存在してるわけです。

それで CVID の完全に核廃棄するってのは現実的には  
無理ですから、不可能ですから

そこで「北朝鮮は CVID の完全核廃棄できていないじゃないか！！」  
とって、そこで在韓米軍や在日米軍の正当性を支える  
ロジックとして使われてきた過去があるわけです。

要するに朝鮮半島で北朝鮮が脅威のままずっと  
「温存」されてる不思議ってみんな感じてるところだと  
思うんですよね。

「お敵様」として極東アジアにずっと北朝鮮が  
脅威のまま何十年も存在している。

そして面白いことにミサイル発射実験は行うけども  
「日本にも韓国にも絶対に本土には落とさないように」  
最新の注意を払って実験を行っているわけですが

そこで特に日本のメディアでは「北朝鮮がミサイル飛ばしてきた～」  
とやって

「平和ボケたちはここで在日米軍がいないというけど  
こんな北朝鮮が何するか分からない状態で

在日米軍がいなくなったら日本は火の海になってしまう〜〜〜」

とか言うわけですね。

まあここで在日米軍とか在韓米軍の正当性が保たれていたわけで  
ここで例えば日本政府が PAC 3 購入したりオスプレイ購入したりして  
そこで軍産官僚たちにそれぞれリベートの手数料が入る

というある種のビジネスモデルですよ、これがあつたと。

だから軍産にとってはこの CVID ってのは大変重要な  
ビジネスモデルを支える基幹ロジックであつたわけです。

ただここでトランプ大統領が誕生してきて  
あの人は選挙戦前に言っていたように

「世界に展開してる米軍を引き上げる」というのを  
目標としてる人間ですから

そこで米国の帝国覇権主義を終わらせて世界を多極化に  
していきたい人がトランプですから

ここでトランプと軍産は利害対立するわけですね。

だからトランプからしたらこの CVID というロジック事態

邪魔であるわけです。

「完全核廃棄なんてできるわけないだろう」ってのが

トランプの本音でしょう。

ただ現実の政治としては「アメリカが北朝鮮を挑発しなければ

北朝鮮は核開発を停止する」

ということを言ってるわけですから、

まあトランプなんかはこの現実路線で動き出していると

言えますよね。

それで私は2017年の韓国のムンジェイン大統領誕生の

選挙の様子を

メルマガで韓国から配信しておりましたが、

そこで書いていたのがムンジェインの背後はどうも

キッシンジャーではないか、と。

トランプの背後もキッシンジャーである、と。

そういうことを仮説として書いていましたが

これは1年経過して正しかったなと思っていて

というのは

今の世界体制はキッシンジャーが背後にいる

中国の習と、ロシアプーチンが加わって

アメリカ、中国、韓国、ロシアの4カ国で

まさにキッシンジャー背後の4カ国のトップで

北朝鮮をなんとかしていこうと動いておりますよね。

そこで「現実的に」CVIDの「北朝鮮の核兵器を完全に廃棄」ってのは

無理ですから

だから今回はこの米韓中露 のそれぞれ首脳が

軍産官僚やマスコミたちがやたらこだわるCVIDを無視して

米朝、および北朝鮮と韓国の和解を進めて行くという

流れになってきてるわけです。

当然、この動きは軍産官僚たちは反対しますよね。

だから例えば日本の官僚たちが読んでいる新聞というのが

読売新聞でして

この読売新聞ってのは外務省関係の省庁なんかには

絶対にある新聞だけど

この読売なんかはあくまでも CVID にこだわった記事ばかり  
書いてます。

トランプは CVID にこだわっていないのに CVID の完全核廃棄を  
求めているかのような記事を出しているわけですが  
まあ嘘ですよ。

だから普通に嘘が日本語圏では報道されているな～～  
っていう感じではありますが

ただこの新聞が全国で見られているということで  
今の世界情勢はおそらく日本人からしたら意味不明なんだろう  
と思います。

それで軍産官僚の一部分であるのがアメリカ議会や  
日本やアメリカのマスコミでありますけども

もうトランプは軍産たちに1年以上攻撃を受けても  
あのツイッターのおかげもあるでしょうがもう全然  
攻撃されても 動じないですよ。

もうさすがにトランプ VS 軍産の戦いでトランプ優勢が大きく  
固まってきてまして、アメリカ議会やマスコミの報道なんか

トランプに効かなくなっているわけです。

これはアメリカ人たちもネットで情報を取るようになって

そして扇動情報と、真実を伝えようとする情報、

それらの情報切り分けの能力を持ち始めていますから

そこで「どうもこのトランプのやってることは最初

馬鹿なんじゃないかと思っていたけど、極めて戦略的である」

と気づきだしている。

トランプのやり方として非常に素晴らしかったのは

この1年間

「北朝鮮を先制攻撃するぞ！！おいおい、いいのかい??」

とまさに朝鮮戦争再発をあおったことでして

これが左翼の人にはわからないだろうけど良かったんです。

軍産の本当に恐れることは「お敵様」である北朝鮮が

崩壊してそこで朝鮮戦争が同時勃発的に休戦を終えて

再開され、そこで韓国が国家崩壊することでしたが

(今の韓国経済なんかは人々が相当豊かになっており

この経済が崩壊するなんてのは資本化論理からしたら

ありえないくらいの損失です)

それこそだから普段戦争をあおって、「ぎりぎり戦争しない状態」を維持してきた軍産はトランプの発言にびっくりしたわけですね。

「おいおい、そんなことはしなくていいよ、  
トランプ大統領、過激な言動は辞めてくれ」

であります。

軍産が嫌うほどの好戦論をトランプは言ったわけですね。

そして軍産も「ぎりぎり」戦争起こるかも知れない状態があるから  
在日米軍や在韓米軍利権をむさぼれたのに

そこで本当に戦争になったら終わりですから

トランプの好戦的な態度には大変批判的でしたが

実はこれがトランプの戦略であったということですね。

---

これは過去の北朝鮮関係の記事で沢山書いてきたことだから  
過去のメルマガ記事探して読んでみてください。

そこでトランプがすごかったのが好戦論を無効にしてしまって  
そしてその後一気に 米朝会談、和解の方向に大転換した

わけですね。

これはトランプの思考が私には良く分かりまして  
やはりトランプは JF ケネディのように暗殺されることを  
常に警戒していただろうけど

ここで JF ケネディのように、真っ向から既得権益層に  
立ち向かって正論言ったら潰されるってことは  
分かっているわけですね。

だからトランプは軍産と闘ってるのだけど  
その軍産が一応喜ぶ論理であるはずの論理が  
「戦争は儲かる」ですから、「戦争するぞ！！」

というやり方を取った訳ですが

これは軍産も反戦とは逆の態度だから  
トランプを責められないんだけど

ここでトランプは JF ケネディとは違って軍産に花を持たせるような  
発言をしつつも、本当は軍産が嫌がるような  
過剰な好戦論を展開したわけですね。

それで結局軍産はこの経営者出身のトランプとの駆け引きに  
負けまして、もう軍産はトランプの手の内にあるくらいの  
状況になってきています。

だから私はトランプの外交見ていると

「這い上がり経営者出身の大統領は強いな～～」

とほんと感心しますよね。

それでもう 軍産系のカーネギー研究所ってのがあんだけど

そこも軍産系なのに北朝鮮に完全核廃棄を求める

CVID について

「これもやっぱり確かに良く考えれば

現実的じゃないし・・・

とりあえずこれ以上北朝鮮が核開発しない状況を作っていって

そこで非核化は後回しにして

時期がこればそれをやればいいかもしれない」

とか言ってるわけです。

ちなみにそんな時期は来ないんだけど、これは軍産官僚たちが

どうも降参してきたと。

もちろん最後まで油断できないものの、これは良い流れだと私は見ております。

それでマスコミが 最近トランプの北朝鮮解決の側近になった  
ボルトンとかポンペオについて好戦派だ、と報じていたりしたわけだけど  
それは以前に「ボルトンは実際には北朝鮮交渉を秘密裏でやっていた」  
ということを、これは私のメルマガで後付じゃなくて

1年以上前からボルトンの名前をもろに出して書いているんですね。

だから実はボルトンもまた「好戦派を装ったハト派」であるという  
ことですよ。

トランプと同じで。

んでマイクポンペオ CIA 長官も実は3月末に 米朝会談準備のために  
北朝鮮を秘密訪問していたんです。

それでヒラリークリントンというのが以前国務長官で  
あの女は結構悪い女で本当に大きな戦争でなんとか  
アメリカ経済立て直しましょうという戦争経済派であったけど

今回トランプはこの軍産のコントロール下にある

国務省を完全に米朝階段の準備から外しているわけでした

やはり頭いいんですよ。

徹底的にトランプはどの省庁を使ったら軍産と闘うのに

効率的か、とか計算、シミュレーションした上で

政治を行っているわけです。

このトランプのすごさ、はおそらく「自分で稼ぐ」ことを

してる人たちは同じ自営業者を経験してる人間として

気づけると思います。

実はマスコミはこのトランプの戦略のすごさが分からないから

トランプは馬鹿だなんだとトランプの100分の1くらいの

脳みその芸能人にバラエティー番組で言わせていたけども

実際はトランプはあらゆる軍産との戦いの想定をして

そこでどういうツイートをするか、どういう発言をするか

誰に会うか、どの省庁を使っていくかなどなど・・・

を徹底的に計算づくで行ってるわけです。

それで国務省なんかははっきりいって軍産の一部で

トランプの敵ですから、

今回もしトランプがポンペオとかあとはボルトンに  
米朝会談の準備をさせず窓口として国務省を使っていたら  
今回のような結果にはなっていなかったでしょう。

それで今回ポンペオ CIA 長官が国務省の長官になるわけですが  
これについて日本のマスコミは

「ポンペオが国務省長官になって  
対北朝鮮の動きが強硬になっていく」なんて  
報道してましたが・・・

これはそうはならない、米朝国交正常化の流れで  
在韓米軍撤退の動きになっていくということを  
私は書いてきたけど

結局ポンペオ自身が「表向き強硬派で  
裏では米朝会談をセットする」という  
ことをしていたわけですね。

だからトランプがポンペオを国務長官にセットする理由は？？  
というとそれは明らかに軍産の配下である国務省を  
無力化していくためだと分かりますね。

もうポンペオがこの前北朝鮮に行った後から

急に北朝鮮がアメリカと韓国と中国とロシアとくっついて

グルみたいに芝居をするようになっていて

仲良くなっているのが分かると思うんですけど

実は大きな枠組みを作ってるのがトランプ大統領です。

ただ初めて大統領を務める

トランプ大統領だけではここまで老獪な政治はできないだろうから

やはりアドバイザーとしてキッシンジャー博士がいるんだろうと。

それで北朝鮮の金正恩氏はですね、この人はやはり

以前にもメルマガで書きましたが馬鹿ではありませんよね。

というかそもそも幼少期にはスイスで留学して

国際感覚磨いていた人で

日本の週刊少年ジャンプで連載されていた

「ドラゴンボール」とか「スラムダンク」とか熱心に読んでいた

人間でバスケの練習ばかりやっていたような男だけでも

そこで今は北朝鮮のトップであるわけです。

今は北朝鮮のピョンヤンなんかは結構公共交通機関が

発展していてみんな北朝鮮の人たちは  
スマホで生活するようになってきているんだけど  
まさにこれから北朝鮮が経済発展しそうなところですから  
そこでなんとか中国のように資本主義経済を導入して  
発展したいと考えている人でしょう。

が、これは日本のメディアだけ見ていると分からないわけで  
ほんとの金正恩は冷酷な頭おかしい人に見えるわけですね。

ただ英語メディアなんかでは最近金は  
子供に対して笑顔満開で接している写真なんかは良く出てるけど  
この表情はマレーシア人の子供好きな人たちと同じ表情だな  
と私は察知するけど

まあどうも日本マスコミの報道する金正恩像と  
実際の金正恩像はかなり違うと思います。

トランプはそこを良く理解しているはずでしてだから  
「金正恩は非常に高潔な人物だ」と評しているわけで  
これは日本のマスコミの金正恩像と正反対ですよ。

それで金正恩のこういう部分を書くと私がまるで超危ないやつ

に見えるわけだけど

実際の話、金はどうも馬鹿じゃないわけです。

本土にミサイルを落としてしまったらとんでもないことになるから  
北朝鮮のミサイル実験も必ず本土直撃しないように用意周到に  
行っていますが、

金もおそらくこの アメリカ、ロシア、中国、韓国の大きな  
キッシンジャーが作った流れに乗って朝鮮情勢をなんとかしていきたい  
という部分はどうもあるでしょう。

だから金正恩は 間違いなくトランプの軍産つぶしや  
アメリカの覇権放棄戦略や隠れ多極主義的な部分を理解してまして  
それで「表向きは完全非核化」を言い出しているわけですね。

金は大きく今の世界の流れを彼自身の情報網で理解している  
可能性が高いです。トランプとはツーカーでしょう。

デニスロッドマンのことも以前書いたけど  
デニスロッドマンも重要なトランプの特使としての  
役割を果たしました。

それで今の大きな流れだとトランプが軍産をかなり

優勢に押さえ込んでますので

私は注目して朝鮮半島情勢を見ておりまして、

一応トランプは表向きはこれ、軍産へのリップサービスとして

「北朝鮮が何か変な事言って来たら

俺は席を立つぞ！」

とマスコミが喜びそうなことを言ってるんだけど

実際はボルトンやポンペオを北朝鮮に送って調整してることからして

6月の米朝首脳会談を成功させるつもりです。

朝鮮半島の和解ムードはこれからどんどん進む方向で

現在の4月時点では動いているということですね。

個人的には韓国には良く行きますから、これが

成功する流れ、トレンドでトランプ優位が続いてほしいと

思いますが

現実のファンダメンタル見てもトランプは今のところ

優勢を確立させてはいますね。

というのはもう既にアメリカが北朝鮮の首都ピョンヤンに

大使館を置くっていう話も出てきていて

これは外交代表部だから一応準大使館だけど

ここで大使館に準じたものを作るという流れも出てきてます。

また国連安保理での北朝鮮への制裁解除の流れも

田中先生が書かれていましたが

これも遅かれ早かれこれらの動きも

実現するんじゃないでしょうか。

それでここは金正恩の視点で考える必要があつて

今までは金正恩は「在韓米軍が撤退しないとダメだ」

という感じだったんだけど

これから北朝鮮が在韓米軍撤退を言わないでもですね、

韓国と北朝鮮が和解していったらこれは韓国の世論としては

「じゃあ在韓米軍いらないね！」ってことになるわけです。

だからムンジェイン大統領誕生のときにメルマガで書いた感じで

やっぱり在韓米軍撤退議論ってのは出てきます。

だから金正恩もそういう大きな動き、ダイナミズムを把握してるから

「在韓米軍撤退にはこだわりません」と言ってるわけです。

どうせ韓国のムンジェインと仲良くしてたら

勝手に今の世界の流れでは在韓米軍は撤退していくのだから、と  
考えてるでしょう。

それでここで日本でも在日米軍問題というのがあるんだけど

その次はやはりこの在日米軍撤退議論にもなっていくわけですね。

アメリカと中国と韓国とロシアとそして北朝鮮が和解して

和平が進んできたとなったら

ここで「じゃあ在日米軍の意義は何??」となるわけですね。

だからこそ日本マスコミでは上記 CVID にこだわって不可能である

完全核兵器廃絶にこだわるわけですが

ここでもうこの5カ国の構造で上手く朝鮮半島情勢が

解決されていったとすれば

次は在日米軍どうするか、という話になるわけですよ。

それで日本の官僚機構が最近やたら無茶していて

増税もすごいですし、警察国家化もすごいですが

もう暴走しております。

これはやはり彼ら官僚機構なりに今の危うさを感じているんだと  
思いまして、

まずそのトランプ大統領の攻撃が自分たち官僚に開始される前に  
日本の統制状態を  
一気に進めて行きたいんですけど

どうもこの官僚役人天国にも徐々にメスが入ってくると。

それで上記5カ国の首脳は日本の安倍首相が結局  
5年間もあったのに官僚に全く歯が立たなかったという  
政治力の欠如も冷酷に見ているでしょうから

やはりこれは大きな視点で今の日本の首相を挿げ替えて  
それは韓国でも官僚に立ち向かえなかったパク大統領が  
落とされてムンジェインが現れたように

そのような動きが日本でも近未来に  
起こることは想定されますよね。

それで今回トランプ大統領の「実務」のやり方で分かるのが  
結局トランプ大統領は今までの世界各国の首脳と違って

「戦争反対」ということを主張せずに  
過激に好戦策を展開することによって  
戦争を回避する策をとったわけで

これが実の話、今の世界政治の効率的な  
戦争回避工作の  
ノウハウなんだということですね。

「戦争反対デモ」で防げた戦争はありませんでしたよね。

実際の話、多くの人がネットで文字を読めるようになった時代  
ってのは

それよりも「戦争を過剰にあおる工作」のほうが  
戦争を忌避することに役立つわけですね。

やはりそれを見て多くの方は「おいおいなんか雰囲気やばいぞ」  
となるわけで、結局そこで戦争はやめませんか、という話になっていく  
わけですから。

それが分かってきたってのは結構大きなところじゃないかなと  
私は思いました。

だからプロパガンダとしては戦争反対を過剰に言うよりも

「戦争を過剰にあおる」ほうが実際は戦争抑止効果が高い  
ということがいえるかも知れません。

官僚というものは、得てしてどの国でも  
その国の民衆を騙して騙して、「ちょっとづつ」  
収奪するものです。

それが増税になって、次は命を奪う戦争につながっていくわけで  
この「ちょっとづつ作戦」に人類は弱い。

だから彼らはステルス化して  
増税なんかも3% 5% 8%と  
ちょっとづつあげるわけですね。

警察国家化なんかもちょっとづつちよつづつ  
進める作戦を官僚たちは取っております。

ただここで一気にそこで「戦争礼賛」「大増税礼賛」  
「警察国家礼賛」みたいな  
そういう勢力の声が大きくなってきたら

彼ら官僚の「ちょっとづつ慣らして人民を支配する」  
という統治戦略はうまくいかなくなるわけです。

民衆は急激な変化を嫌うわけですから。

そういう意味では今回はトランプ大統領の実務のやり方として  
支持者たちに嫌われようとも 好戦策を打ち出して

その上で本来の目標である和平交渉に取り付けた、という

経営者出身の、理想ではなく現実を徹底的に直視した

マキャベリズム的なやり方は

学ぶ点がありますよね。

そういう意味ではトランプ大統領のやり方はかなり

これからの日本政治の官僚機構を弱体化させるという点においても

民衆は学べる点が多いと思いますね。

いずれにしてもこれからその北朝鮮情勢がどのように

展開するかは注目ですね。

それでは！！

ゆう

